

IT 業界の企業分析

氏 名 清見 大生

指導教員 武田 寛

要旨

本研究は、日本の IT 企業である、富士通株式会社（以下、富士通）、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ（以下、NTT データ）、日本電気株式会社（以下、NEC）、株式会社日立製作所（以下、日立製作所）の 4 社の分析を行う。研究の結果、以下のことがわかった。

(1)富士通の売上高は減少傾向にあるものの、2023 年 3 月期の EBITDA は直近 20 期で最高となり、ROE は 13.5%である。全般的に、売上高成長率は持続可能成長率を下回り、資金余剰の状態にあるため、内部資金を活用して、DX 企業を目指している。

(2)NTT データの売上高は直近 20 期で増加しており、EBITDA と当期純利益も増加している。2023 年 3 月期の ROE は 11.0%である。売上高成長率は持続可能成長率を上回る事が多く、資金不足時には、社債、コマーシャルペーパー、銀行借入による資金調達を実施し、北米や欧州を中心とした海外 M&A 戦略により、売上高を伸ばしている。

(3)NEC の売上高は 2017 年 3 月期を底に増加し、EBITDA も同様である。2023 年 3 月期の ROE は 7.3%である。全般的に、売上高成長率は持続可能成長率を下回り、資金余剰の状態にあるため、内部資金を活用して、多角化戦略を進めている。

(4)日立製作所は、構造改革の結果、売上高と EBITDA と当期純利益は増加基調にあり、2023 年 3 月期の ROE は 14.0%である。売上高成長率は持続可能成長率を下回ることが多く、資金余剰の状態にあるため、内部資金を活用して、Lumada という独自プラットフォーム事業を拡大している。

(5)Dickinson が開発したキャッシュフローによる分類にしたがって、4 社の企業のライフサイクルを明らかにしたところ、主に成熟期と成長期にあることがわかった。また 4 社と、米国の GAFAM や中国の BATH といわれる IT 企業とを比較すると、4 社は成熟期が多いのに対して、米国の GAFAM や中国の BATH は成長期が多いことがわかった。